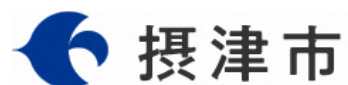


鳥飼まちづくりグランドデザイン
(居住性向上エリアA)
-取組の方向性(8)-

～魅力ある淀川河川敷～
第2回ワークショップ

令和5(2023)年11月17日



サブテーマ【スポーツ・ライフスタイル】

【重要度設定の観点】

1. 多世代の居住性向上
2. 若い世代の定住を促す
3. 市民が集い憩える
4. 市外からも人が集まり地域の賑わいに繋がる

重要度：A～D（高→低） 難易度：1～4（低→高）	意見	重要度	難易度
A3	芝生や様々なスポーツができる多目的運動広場	芝生や様々なスポーツができる広場は、地域のファミリー層や若者など幅広い市民が楽しめる場所である。魅力ある場であれば、近隣市外からも人が集まり、にぎわいの創出につながる。	既存の多目的エリアを使用すれば、すぐに実施が可能。ただし、新規にスポーツ用の施設の整備が必要な場合は、洪水時でも堤防等に影響を与えない施設にする必要があり、設置できる施設は限定的となる。
D3	サイクリングコース等を整備し、休憩拠点を提供する	サイクリングコース等を整備し、休憩拠点を提供することは、鳥飼地域の河川敷の利用者増が期待できるが、増加した人々を地域の賑わいに繋げる仕掛けが別途必要。	休憩場所は、既に鳥飼サービスセンター（とりかいとびあ）で機能提供されている。多くの人に魅力があるサイクリングコースの設定が課題。休憩拠点にカフェ等を設置する場合は、新たに休憩所の設置と、カフェ等の経営者が必要。
A4	BBQエリアを充実させる	BBQは、地域のファミリー層や若者など幅広い市民が楽しめるものであり、気軽にBBQが出来るエリアは、市民等が集い賑わう場とすることができる。	既存のBBQエリアでBBQは可能。また、仮設トイレの増設等であれば、適切な管理（洪水時は撤去する）を前提に可能。ただし、水洗い場の設置や河川敷内に水道管を敷設する場合、洪水時でも堤防等に影響を与えないものにする必要があり、河川管理者との調整が非常に難しい。
B2	ドッグラン	ドッグランがあれば、地域で犬を飼っている多様な世代が集うきっかけができ、地域のつながりを強くする可能性がある。また、犬を中心にイベント等が企画できれば、地域の賑わい創出も可能。	現在も多目的利用ゾーンにて時限的に簡易的な囲いを作りドッグランを開設しており、同程度のドッグランであればすぐに実施可能。
D3	グランピングができる	現在の河川敷を利用してグランピングは可能。ただし、ここでグランピングをしたいと思える、魅力ある仕掛けが必要。グランピング利用者が増え、鳥飼に多く人が集まるようになれば、地域の賑わいに繋がる可能性がある。	既に十三・西中島でグランピングは実施されているため差別化等が求められる。また、管理事業者が必要。
D2	ドローンフィールドをつくる	ドローンの需要が増加している中、ドローンを自由に飛ばせる場があれば、周辺地域からも利用者が増える可能性が高い。ただし、ドローンの練習に来た人々を地域の賑わいに繋げる仕掛けが別途必要。	ドローンフィールドは河川管理者と協議をして設定することは可能。多目的利用ゾーンをうまく活用すれば、ハード整備も不要。なお、実際にドローンフィールドを設定する場合には、関連する各種法律等の整理が必要。
C1	屋外イベントの開催を通じて賑わいを創出する	屋外イベントの開催は、内容により、市民等が集い、地域の賑わいに繋げることは可能。	市だけでの開催は困難なので、実施主体が必要。
D4	ゴルフアプローチ	ゴルフのアプローチの練習ができる場を整備すれば、近隣市町からも練習しようとする人たちは集まる。ただし、地域の賑わいに繋がる仕掛けは別途必要。	鳥飼上より上流にゴルフ場があるが、現在は新規で独占排他的に民間事業者が河川敷を利用させることは許可されていない。

※ローラースケートやストライダーレース大会、マラソン大会、ラジコン大会は、事業主体が出現すれば実施できるため、今回の重要度・難易度のマトリクスからは外す。

※スポーツのカテゴリーで整理した「芝生や様々なスポーツができる多目的運動広場」及び「サイクリングコース」は、ライフスタイルと共に検討することとした。

サブテーマ【教育等その他】

【重要度設定の観点】

1. 多世代の居住性向上
2. 若い世代の定住を促す
3. 市民が集い憩える
4. 市外からも人が集まり地域の賑わいに繋がる

重要度：A～D（高→低） 難易度：1～4（低→高）	意見	重要度	難易度
B4	防災ステーション内にカフェやレストランを併設する(淀川の魚を食べる等、地産地消メニューや非常食を使ったメニュー)	カフェやレストランは、地域のファミリー層を含め多世代の利用が見込める。また、特色あるメニュー等が提供できれば市外からの来訪者も増え、地域の賑わいを形成する場になることも可能。	河川敷内にカフェやレストラン施設を建設することはできないが、防災ステーションの上部施設（水防センター）の平時の利用として、検討することは可能。ただし、別途運営者が必要。
B4	こども食堂	子ども食堂は、子どもの貧困や孤食を防ぐ場、親同士が交流する場、地域交流や地域活性の場としての役割が期待される。	防災ステーションの上部施設（水防センター）の平時の利用として、子ども食堂の運営を検討することは可能だが、別途運営者が必要。
B4	複合スポーツ施設(合宿可能)	複合スポーツ施設は、地域のファミリー層を含めた多世代の利用が期待でき、多世代を対象とした健康増進を図ることが可能。魅力ある仕掛けができれば、スポーツをきっかけとした集い、にぎわいの場にすることも可能。	河川敷内に宿泊可能な施設を建設することはできないが、防災ステーションの上部施設（水防センター）の平時の利用として検討することは可能。ただし、別途運営者が必要。
B4	水防センターにプラネタリウムや展望エリア	プラネタリウムや展望エリアは、地域のファミリー層を含む多世代の市民が集う場となる。市外からの利用も期待できるが、別途地域の賑わいにつなげる仕掛けが必要。	プラネタリウムや展望エリアについては、防災ステーションの上部施設（水防センター）の平時の利用として、検討することは可能。プラネタリウムについては、別途運営者が必要。
C2	淀川の歴史や遺産を学ぶことができるハイキングコース	歴史を学べるハイキングコースを設定できれば、自らの地域をよく知り、郷土愛を育むことにつながる。ハイキングは市民の健康増進につながり、街中もコースに組み込むなど工夫をすることで地域のにぎわい創出にもつながる可能性がある。	既にハイキングコースは設定されているが、あまりこのコースをハイキングする人は増えてはいない。市外の人たちにも魅力的なコース設定が必要。

※カフェやレストラン、こども食堂、複合スポーツ施設、プラネタリウムや展望エリアは水防センターの機能に繋がるものなので、水防センターの平時利用を検討する際に、改めて検討する。

※ネーミングライツや駐車場の有料化は整備した河川敷の運営資金調達に関する事項であり、具体的な整備内容等が決まり財源を検討する時に、改めて検討する。